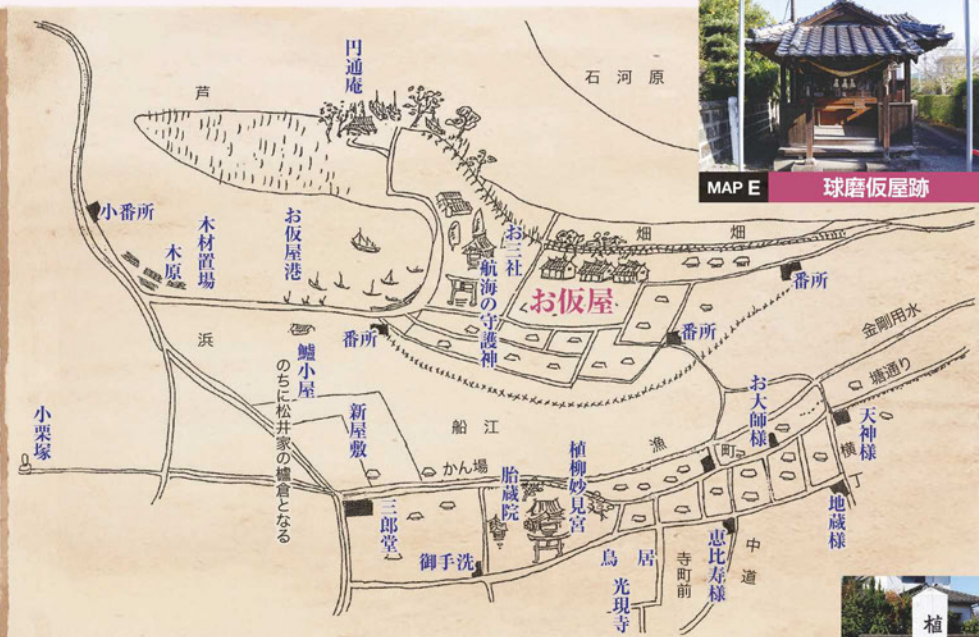


# まるで長崎の“出島”！ 人吉藩の居留地、「球磨仮屋(お仮屋)」が存在したエリア

【植柳元町・下町】球磨仮屋跡周辺のチェックポイント

江戸時代、植柳元町の球磨川堤防に近いエリアは、大部分が港のない人吉藩のための敷地「球磨仮屋」で、かつては蔵屋敷やお茶屋などがあり、人吉藩から派遣された約600人余りの人々が生活していたそう。「植柳妙見宮」(現在)

在の植柳児童公園)を中心に門前町として栄えた植柳元町周辺(旧漁町)は、港町として人の行き来の盛んな土地だったようです。  
※球磨仮屋が存在したのは、1626年頃～1870年といわれています。



出典/『植柳盆踊り』鈴木繁角氏による「お仮屋跡周辺の図」(江戸期の想像復元図の一部を転載(八代市伝統文化活性化協議会発行))



MAP C 植柳神社

相良氏も参拝したとされ、妙見信仰の中心ともなった「植柳妙見宮」は、明治3年(1870)の神仏分離令により「植柳神社」と改称。昭和15年(1940)に社殿は現在地へ移転しました。毎年、お正月には地元の皆さんが巨大門松の準備をして参拝客を迎えます。



MAP D 植柳の津

江戸時代以前の干拓事業前の植柳地区は、八代海に面した海辺でした。戦国時代には八代を統治していた相良氏が「植柳の津」に注目し、海上交通の拠点としていました。



MAP G 15代続く旧家・米家のなまこ壁

植柳神社から延びる通りには、50mほど続く美しいなまこ壁が残っています。壁に埋め込まれている瓦には、一枚一枚に製造者と思しき「八代吉平」の文字が見えます。このなまこ壁が、通り全体の歴史の重みを感じさせてくれます。

- ①お仮屋時代より残る普賢立像。②円通寺内に掲げられている相良氏第37代当主頼嗣氏の書。

## 植柳偉人伝

### 坂田家の人々

◆坂田道男 (1887～1973)  
五校時代の教え子二人が総理大臣に。初代八代市長となった教育者  
旧制八代中学校、第五高等学校、東京帝国大学法科大学独逸法科卒。第五高等学校教授、衆議院議員、初代八代市長。  
植柳小学校の旧講堂設立の立役者でもあり、芸術文化に造詣が深く、植柳・八代に多大なる貢献をもたらした人物。元総理大臣の池田勇人、佐藤栄作は五校教授時代の教え子です。

◆坂田道太 (1916～2004)  
衆議院議員を連続17期歴任し、衆議院議長をも務めた政治家  
道男の長男で、旧制八代中学校、旧制成城高等学校(現成城大学)、東京帝国大学文学部独逸文学科卒。1946年衆議院議員総選挙に熊本県全県区から出馬し、初当選。以後、17期連続当選。衆議院議長、法務大臣、防衛庁長官、文部大臣、厚生大臣等を歴任しました。

■資料提供/『植柳盆踊り』八代市伝統文化活性化協議会/『建築部会創立20周年記念誌 熊本近代建築物』社団法人熊本県建築協会の建築部会発行/『歴史と文化』196～189/八代史話会 坂田道生稿/八代市立博物館未来の森ミュージアム/植柳コミュニティセンター/公益財団法人 宮崎県立学術財団/八代市立植柳小学校

## 植柳小学校校歌

植柳小学校校歌は昭和10年に制定されました。当時、文壇・歌壇を席巻していた北原白秋。そして、山田耕筰は北原白秋とともに日本の童謡を発展させた作曲家です。二人が組んで作った『この道』からたちの花』は、誰もが一度は聴いたことのある名曲ですね。植柳小学校の校歌は、まさにこの二人による作品。同窓生にとっては今でも歌える、心に刺された名曲です。



植柳の愛称「いすかし」の生みの親は北原白秋  
北原白秋は、歌詞の中で栽柳園の櫻の木を日本書記にもある「嚴櫃(いすかし)」と表現しました。現在も植柳地区で親しみを込めて使用されている「いすかし」は、植柳小学校校歌から生まれたのです！

3月に創立150周年を迎える植柳小学校の、記念誌ができました！  
●学校を見学したい方は事前にお電話をお願いします。  
☎0965-35-1933 (平日9:00～17:00)

- ①球磨仮屋跡附近の狭い路地  
車一台がギリギリ通れる狭い路地が迷路のように巡らされています。住宅街ですが、どちらのお宅も素敵な緑の生垣で仕切られていて、散策するにはとても楽しいルート。
- ②お堂・祠&お地藏さまが角々に点在  
ちよっと歩けばあちこちに小堂や祠、そしてお地藏様が点在しています。住民の方々が信心深く、地域を大切にしていることがうかがえて、ほっこりしますよ。
- ③まさかの人吉藩居留地、「お仮屋」があった！  
今はその面影は残っていませんが、その時代の歴史に思いを馳せながら歩くと、不思議な気持ちで散策できます。

## 八代の盆踊りの宝 植柳盆踊り

江戸時代の始め頃始まったといわれ、現在はお盆の夜(8月14日)に、八代市立植柳小学校の校庭で開かれる「ふるさと祭り」の行事で盛大に踊られるとともに、地元町内の初盆宅(初盆を迎えた家)で供養のために踊られます。楽器を用いず、口説き手の口説き唄のみで物語をつづり、老若男女の踊り手は「とまぎ」のない緩やかな振りで踊ります。

踊り手の装束(服装)は、男は座頭笠、女は黒頭巾で顔を覆い、白い着物に黒い帯という特徴的な姿です。これは「折助とおすけ」という植柳の若い男女が心中する姿を表現しており、悲恋心中の道行きとお盆とが重なり、別名「亡者踊り」とも呼ばれています。単純な旋律と「ヨイヤサ、ヨイヤサ」の囃子が味わい深い哀愁を醸し出します。



植柳コミュニティセンター 陽のパン

## 旧講堂



- ①集会場だった講堂は後年、図書館として利用されました。現在、中には当時のグランドピアノが置かれています。
- ②講堂の東側は保健室として利用されていました。窓枠も当時のままの面影が残っています。③西側にある出入口。(※旧講堂の中は老朽化のため見学できません)

## 【植柳上町】植柳小学校エリアのチェックポイント

- ① 150年の歴史が物語る！植柳小学校に残る「3つの宝」  
明治7年、元々は御飯屋人吉藩の倉庫があった場所に設立された植柳小学校。明治41年に現在の場所に移転し、3月で創立150周年を迎えます。伝統校として数々の輝かしい軌跡はもちろん、植柳地区の方々に限らず、八代市民にとっても誇るべき「3つの宝」をご紹介します。
- ② 栽柳園の歴史を見つめてきた木には鳥の声。今は子ども達を見守っています。③ 秋・冬には大きなイチヨウの木の黄葉が美しく輝きます。
- ④ 赤い葺り廊下と錦鯉が泳ぐ「白鳥の池」。旧講堂が利用されていた頃までは、校舎と講堂を繋ぐ廊下として利用していました。④ 能楽を好んだ松井章之(てるゆき)は、この薬山を「駿河湾から富士山を眺めた景観を模した」といわれています。
- ⑤ 「清明の池」。以前は球磨川の水を引いていたそう。今も様々な植物が育ち、クレソンも群生しています。渡り鳥の鴨も羽を休める憩いの池です。
- ⑥ 正面玄関前には昔ながらの百葉箱(気温や湿度を観測する装置)も。現在は使用されていませんが、その姿を懐かしく思う方もいるのでは。

■資料提供/『植柳盆踊り』八代市伝統文化活性化協議会/『建築部会創立20周年記念誌 熊本近代建築物』社団法人熊本県建築協会の建築部会発行/『歴史と文化』196～189/八代史話会 坂田道生稿/八代市立博物館未来の森ミュージアム/植柳コミュニティセンター/公益財団法人 宮崎県立学術財団/八代市立植柳小学校